

## 【旭区】令和3年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和3年2月5日（金） 14時30分 ～ 16時30分
場 所	旭区役所新館2階 大会議室
出席者	<p>【座長】大岩 真善和議員</p> <p>【議員：4名】古川 直季議員、こがゆ 康弘議員、 河治 民夫議員、木内 秀一議員</p> <p>【旭区：17名】下田 康晴 区長、小磯 行生 副区長、 亀井 直樹 福祉保健センター長、 齋藤 真美奈 福祉保健センター担当部長 渡邊 知幸 旭土木事務所長、古屋 明弘 旭消防署長 ほか 関係職員</p>
議 題	<p>【議題】 令和3年度予算（案）について</p> <p>【報告】 （1）令和3年度予算編成に向けた「区提案反映制度」の項目について （2）『（仮称）横浜国際園芸博覧会旭区推進協議会』の設立に向けた 準備状況について</p>
言 の 要 旨	<p>（議題）</p> <p><b>1 令和3年度予算（案）について</b></p> <p>木内議員：「IV-2SDGs 未来都市の実現に向けた大規模団地再生事業」 「2 学校跡地の活用等」について、現在の進行状況を教えてほしい。</p> <p>中村区政推進課長：若葉台西中については、地域団体がスポーツ文化の拠点として活動し、本格活用後も引き続き継続の強い要望がある。その要望に応えるための事業スキームを検討しているが、なかなか事業スキームが立てられず局との調整が続いている。施設は、老朽化しているため、安全上問題がある点は必要の都度対応し、引き続き本格活用に向けて局と粘り強く調整していきたい。</p> <p>木内議員：鶴ヶ峰駅周辺のまちづくりとして、駅の立体化も踏まえ現状はどうなっているか。</p>

中村区政推進課長：鶴ヶ峰駅については、連続立体交差事業が順調に進んでいる。駅北口周辺のまちづくりも地権者を中心に進められているので、区としても局と連携して進めていきたい。

木内議員：「Ⅲ-1 区民スポーツ事業」について、報告として伝えるが、旭区はサッカーが盛んな地域との認識だが、神奈川シニアサッカークラブの声でもあるが、横浜の西部地域にサッカー場が少ないという声を聞く。今後サッカー場の整備の機運が高まるようであれば、対応が必要になるかもしれない。特に回答は求めない。

こがゆ議員：事業全体的に講座、教室、研修など人が集まる事業が計上されているが、コロナ禍の中で中止になったり、オンライン、Webなどの開催になっている。仮に中止やオンライン等になった場合、予算が余ると思うが、人が集まる事業を執行するか中止にするか、全体的にどのような方針で判断していくのか。

本城総務課長：令和3年度の予算編成については、新型コロナ感染拡大の状況下において令和2年度の事業実施の経験値、実績を踏まえている。一部事業でICTの導入、ルール改善、動画配信の実施などコロナ禍でも実施できるようにしている。3年度の事業実施にあたり新しい生活様式に対応、3密を排除した事業実施をしていくこととし、感染症の状況に応じて実施方法を変更し、対応していくと考えている。事業実施の判断の基準は難しいが、例えば現在のように緊急事態宣言が発令されていることも一つの基準だと思う。そういった状況を見ながら柔軟に対応し、しっかり判断していきたい。

こがゆ議員：やるかやらないかの判断は、前広にやらなければならないが、開催する場合は、徹底したコロナ対策が必要だ。それができなければリモート開催にするなどの英断をしなければならないので状況を見極めていただきたい。地域で開催する、例えば拠点の防災訓練など地域によってやるかやらないかばらばらなので何らかの基準を明確にして地域の方々をフォローしていただきたい。

「Ⅱ-1 災害に強い区づくり事業」について、地区連合、地域防災拠点防災訓練の実施56回とあるが、先ほどの指摘を踏まえてほしい。

「Ⅱ-4 安全で安心な食と生活環境支援事業」「2 飼い主のいない猫対策事業」について、飼い主のいない猫は、区内でどのくらいいるのか。そのような猫が多い地域があり対策をしなければならない状況なのか。

古厩生活衛生課長：特に多い地域は市街化調整区域など郊外部で、数については把握していないが、東京都の調査から横浜市に当てはめて推計すると、旭区内で 2,000～2,800 頭いると考えられている。

こがゆ議員：特定の地域で増えているということではないと理解した。

ボランティアが活動するとのことだが、旭区内にこのようなボランティア団体はあるか。

古厩生活衛生課長：ボランティア団体はない。個人で活動している方が対象となっている。本年度 11 月に旭区で「人と猫の共生推進ボランティアの登録等に関する要綱」を制定し、募集したところ 3 名の応募があり登録している。これまでの活動実績を踏まえてさらに 10 名ほどの方に登録についてお願いしている状況である。

こがゆ議員：横浜全域について、愛護団体がやってくれるところがあると思う。個人だと支援の内容が違ってしまう可能性がある。

「Ⅲ-1 あさひ魅力発見事業」「3 あさひのつながり応援補助金」について、5 万円を 12 団体に補助すると聞いているが、具体的にどのような地域課題の解決をするのか見えない。「Ⅸ-2 元気な地域づくり推進事業」の中のきらっとあさひ地域推進事業では、新規団体は募集しないことになっており、これに代わる事業として新たに立ち上げているのか。

中村区政推進課長：「きらっとあさひ地域支援事業」については、最大 3 年間の補助事業で、局の配付予算が非常に厳しい中、継続団体の補助金交付のみとなり、新規団体の募集はできなくなった。新たに立ち上げる「あさひのつながり応援補助金」は、2 人以上の区民で、顔の見えるエリア、自治会町内会等エリアの中で、例えば自宅のガレージでふれあいサロンを作ろうとか、昔遊びをして地域交流を図るなどちょっと試してみたいような事業についての補助で、つながり支え合いの広がりを目指し新たに展開していきたい。

こがゆ議員：どのような活動の補助なのか例示していただきたい。最大3年だと補助がなくなるので3年で終わってしまう人も多い。あさひのつながり応援補助金は1年間で5万か。

中村区政推進課長：はい。

こがゆ議員：最初の1年は支援してもらい、次から補助金が出ないので、どうしたら継続的にやれるかを考えてほしい。

次に「IV-1 希望ヶ丘駅周辺のまちづくりに関する検討」だが、令和元年度、2年度の事業内容と結果を教えてほしい。

中村区政推進課長：希望ヶ丘駅周辺については、ハード的な問題がある中で昨年度は、委託調査を行い地域住民や地域ケアプラザなどの施設にもヒアリングを行った。その調査結果についてはまとめたものがあるので提供させていただきたい。

こがゆ議員：区民の方々に聞かれることが多いので、議員全員に提供いただきたい。また、この事業は相鉄の協力も必要だ。

「VI-(2)-3 クリーンタウン横浜事業」だが、二俣川駅の喫煙禁止地区で過料徴収の実績を教えてほしい。

中村地域振興課長：後ほど答えます。

こがゆ議員：後ほど教えていただきたいが、あまり見たことがなく実態があるのか。二俣川など禁止地区はかなりきれいになっているので、効果が表れたのであれば、自主的な活動への移行もあると思うので、どんな状況かフォローして地域活動への支援をしてほしい。

「VIII-1 郊外部における働く場の創出事業」だが、経済局からも話は聞いたが、駅に近い支店で2～3人が働くイメージだと思うが、それよりも在宅勤務になり、家で仕事ができないから1人用の個別用オフィスのニーズが多いのではないか。二俣川駅に1人用のオフィスになるブースができた。このようなインターネット環境を備えたスペースの方が、ニーズが高いのではないか。

中村区政推進課長：この事業のイメージは、1人用の個別ブースではなく、経済局の企業の誘致関係の部署と連携をするので、サテライトオフィスをイメージしている。郊外部ということで旭区の財産、魅力などを生かせるような、どのような機能を入れればまちの価値が高まるかという視点で研究し、ビジネス機能を誘

導していきたい。

こがゆ議員：立地等企業ニーズをよく調べて、経済局とも調整して実施していただきたい。

河治議員：コロナ禍の中様々なイベントがなくなり、自治会町内会などもどうしたらいいのかわからない状況が続いているが、区としての支援はあるか。

中村地域振興課長：地域活動への支援については、従来から配付している地域活動支援補助金の場合、今年度事業が中止になり比較的資金に余裕のある自治会等もある中で、補助金の用途をICTやインターネットの整備について使っても問題ないとしており、その周知もおこなっている。

自治会等からインターネット活用の質問も受けており、電子回覧等の相談も個別に対応している。

河治議員：この先コロナの状況がわからない中、ネット、Web が活用される。自治会等にも提案していただきたい。

次に「Ⅱ-1 災害に強い区づくり事業」「5 帷子川未改修区間カメラ管理事業」について、拡充になっているが、例年どんな状況で、増設されたことによりどう変わるのか教えてほしい。

本城総務課長：この事業は、増水が危惧される帷子川の大栗橋付近にカメラを設置して常時映しているものだが、現在3G回線になっているが、令和4年3月に通信ができなくなってしまうためLTE回線に切り替える必要があり、そのモジュールアンテナに切り替える工事に必要ということで予算の増額となっており、増設ではない。

河治議員：「Ⅳ-1 希望ヶ丘駅周辺のまちづくりに関する検討」について、地権者の検討会に出されている要望の主なものを教えてほしい。また、地権者の中でも、ロータリー付近は相鉄が持っている土地が相当数あると思われ、駅の開発について相鉄の意向を示してもらう必要があるのでは区でリードして相鉄と話し合いを持つことが、今後進めていくうえで大きな鍵になると思う。一昨年11月のJRとの相互乗り入れがあり、上瀬谷での事業、これから東急との相互乗り入れもある中で、相鉄沿線の中で希望ヶ丘駅だけが取り残されている状況を感じる。その中で区が事業としてやっていることは地域を励ますことになっている

が、今後より一層進めていただきたい。

中村区政推進課長：地権者の検討会については、地権者の一部の方からまちづくりについて、検討会を立ち上げたいとの意見があり、自治会町内会も含め本年度検討会を立ち上げた。まずは勉強会という形で専門のコーディネーターに入ってもらって、まちづくりの手法の勉強をしている段階で、これからどんな街にしていくか地権者同士で話し合い、情報を共有しながら将来像をまとめていく。相鉄にも昨年度の調査時にヒアリングを行い、まちづくりの情報についても、日ごろから情報共有を行って、連携をとれる状態になっている。相鉄とも連携しながら地域との地権者の議論が進むよう引き続き支援をしていきたい。

河治議員：希望ヶ丘駅周辺は、道路については歩行者等の安全性に欠け、沿線の道路に関しても問題を抱えているので、この地域の人達はこの事業に対し期待しているのでよろしくお願いします。

「IV-2SDGs 未来都市の実現に向けた大規模団地再生事業」について、左近山団地については大学と連携する取組をしてきたが、来年度で終了と認識しているが、得られた成果をどう発揮していくか。地域に任せていいのか。

中村区政推進課長：左近山団地については「大学生による地域支援事業」ということで横浜国大生が入居して、地域を活性化する取組をしてきた。入居している学生だけでなく住んでいない学生も加わり活動が活発化している。これを地域のNPO 団体が引き受けているが、このNPO の機能強化をするための仕組みづくりを本年度から始めており、このNPO の機能強化をしながら地域の主体的な取り組みに移行していく段階だ。学生についても横浜国大での地域課題実習のメニューにするなどさらに学生を増やす仕組みの検討をしている。大学やUR も巻き込みながら進めていきたい。

河治議員：「VIII-1 郊外部における働く場の創出事業」について、旭区だけでなく相鉄沿線の保土ヶ谷区、瀬谷区もあり、「旭スタイル」にも旭区の魅力という点では、自然があり、横浜駅に近いことがあげられるが子育て世代の若い人達は、実際に住んでいる中で旭区の魅力を一層感じていることが、旭区の財産、資源だ。旭区だけではできないこともあると思うので、経済局も含めな

がら瀬谷区、保土ヶ谷区を含めた相鉄沿線の区とも相談しながら進めていただきたい。

中村区政推進課長：この事業については、来年度調査を開始するがまずは旭区でビジネス機能をどう入れていくか基礎調査として行う。郊外部でこれからどんなことが考えられるかということも含め調査研究していきたい。相鉄沿線区とは、魅力発信、定住促進について連携しているので情報共有しながらやっていきたい。

古川議員：コロナ禍で人と人とのつながりが難しくなり、Web 等を活用してコミュニケーションを取っている。自治会等では、広報紙の受け渡しもよくないとの声も聴く。その中で高齢者の中にはスマホが嫌だとかSNSに慣れない方もいる。そういった方のために各連自治会等に講師を派遣してICT機器を使えるようになるための研修があると聞いたが、うまくいっているのか。

中村地域振興課長：令和2年度市民局のICT活用を連合単位で支援する事業で旭区は、7連合から申し込みがあったが、新型コロナの影響で開催できない状況になった。市民局は、来年度落ち着いたら実施していく方針だ。旭区としては、支援事業という形はとっていないが、例えば青少年指導員の定例会も開催できないため、タブレットを配布して実施したり、また独自に地域の団体に電子回覧の紹介、活動補助金の中でICT環境を整えてもらっている。このような状況の中、区連会を中心にICTの環境や機器に慣れない方もいらっしゃるので急速ではなく、徐々に導入し、お互いコミュニケーションを取りながら進めていきたい。

古川議員：引き続き、いろいろな方法があると思うが、皆が機器を使えるようになると、いつも会っていた人とオンラインでコミュニケーションをとるのは非常に便利でいいと思うので、普及していただきたい。

大岩議員：「Ⅷ-1 郊外部における働く場の創出事業」について、働く場所を旭区のような郊外部にどうやって作るかが重要だが、小田急多摩線沿いにあるネスティングパーク黒川の事例を聞いた。建築局で情報交換したが、駅前に働く場所を作り、趣味の延長のような仕事をどうやって作っていくかというような趣旨のシェアオフィスとなっている。情報として聞いてほしい。

「IV-2SDGs 未来都市に向けた大規模団地再生事業」「2 学校跡地の活用等」について左近山小高小は、取り壊しが決まり教育委員会で予算を計上していると聞いたが、現状で決まっていることを教えてほしい。

中村区政推進課長：左近山小高小については、土地を半分に分けて、片方は特別養護老人ホームの公募に向けて健康福祉局が検討を進めている。もう片方は、地域のニーズとして団地の4, 5階でエレベータの無いところに居住する高齢者等の住み替えの受け皿や、子育て世代の流入促進の受け皿となるような住宅を考えている。まだ事業性の確認をしなければならないことが多いがそういった方向で進めていきたい。

古川議員：マイナンバーカードが、旭区で現在どのくらい発行されているか。またこれからワクチン接種が始まるが、ワクチン接種の会場ややり方など相当大変だと思って臨んでいただきたい。地域ともしっかり協力しながらやっていただきたい。

小磯副区長：マイナンバーカードの申請状況は、区全体で約31%となっている。ワクチン接種の会場等については、区役所としても頑張ってやっていきたい。

本城課長：先ほどこがゆ議員から地域振興課長に質問があり答えられなかった件についてこの場でお答えしたい。

中村地域振興課長：過料の件については、平成31年度から今年度まで旭区では、11件、なお今年度は、本日現在0件となっている。巡回指導については、9件となっている。地域、関係局と連携しながら対応を進めていきたい。

本城課長：本日佐藤議員が欠席のため、事前に質問をいただき、回答をこの場で読み上げさせていただきたい。

質問は、「I-5 地域福祉保健事業」について、第4期地域福祉保健計画の策定は、広く区民に知っていただくことが重要と考えるが広報周知をどのように進めていくのか。」で、回答としては、「旭区地域福祉保健計画の概要版について、読みやすさわかりやすさに配慮し、図やイラストを活用して作成する。なお今回概要版や19 連合ごとの地区別計画等の作成にあたり旭区社会福祉協議会で印刷経費をご負担いただけることになり、区の予算と合わせることでより多くの方に配布し周知できる。

この他にも広報よこはま旭区版の掲載による全戸配布、地区の広報紙やケアプラザの広報紙への掲載依頼による周知も進める。旭区地域福祉保健計画を推進していくために一人でも多くの区民の皆様に計画の愛称である『きらっとあさひプラン』を認知していただき、計画の内容を把握し一緒に推進していただけるよう工夫しながら、広報周知を行っていきたい。」ということで佐藤議員にも後ほど回答するので、御了解のほどよろしくをお願いします。

## 2 報告事項について

### (1) 令和3年度予算に向けた「区提案制度」の項目について

こがゆ議員：「新しい生活様式に配慮した、効率的な開票作業の実施」だが、具体的にどのような提案か。

また「連続立体交差事業及び鶴ヶ峰駅北口周辺まちづくりと連携した旭区総合庁舎等再編整備の推進」について、区役所を駅周辺に移転する前提で考えているのか。

本城課長：「新しい生活様式に配慮した、効率的な開票作業の実施」だが、提案の内容は、従来開票作業には多くの従事者が必要となり、開票所そのものが3密状態になる。候補者を光学式で読み取るための機械を導入し、3密の回避と効率的速やかな開票作業を実現すると提案をしたが、予算上の厳しさ等の判断で予算化は見送られた。

中村区政推進課長：「連続立体交差事業及び鶴ヶ峰駅北口周辺まちづくりと連携した旭区総合庁舎等再編整備の推進」については、連続立体交差事業や駅周辺のまちづくりが進められている中で、区庁舎のいろいろな課題が多く出てきているので再編整備を検討していくことは、庁内で確認を取れている。建て替えや駅周辺に移転する可能性を考えながら作業を進めていきたい。

こがゆ議員：旭区役所は、駅から少し離れているので、進めていただきたい。

開票作業については、コロナ禍の中の開票作業の在り方は、採用はされなかったが、全市的な課題として議論する必要がある。予算委員会でも我々もしっかり提案していきたい。

河治議員：「連続立体交差事業及び鶴ヶ峰駅北口周辺まちづくりと連携し

た旭区総合庁舎等再編整備の推進」について、区庁舎については、鶴ヶ峰駅周辺に、市営住宅があったところが横浜市のあるという好条件の中で、区役所が駅から少し離れていることを踏まえ検討していただきたい。

また、「横浜環状鉄道の早期延伸」について現在の状況と今後の方向性、「白根通り拡幅事業の早期完成」についても今後の日程を教えてください。「帷子川河川改修事業の推進」については、東洋ガラスの土地取得の問題もあると思うが、今後の日程を教えてください。

中村区政推進課長：「横浜環状鉄道の早期延伸」については、環状鉄道が、中期4ヶ年計画や横浜都市交通計画において事業化に向けた検討をすると位置づけられており、事業性が課題ということもあるが、相鉄のJR直通線が開業し、2年後には東急との乗り入れもある中でまちづくりの動きの中でどのような事業性が出てくるか再検証していく。

河治議員：都心部に行くことだけでなく、環状鉄道は東戸塚含め横断していくことになるので、相鉄線の相互乗り入れだけでは解決できない問題もあると思うので対応していただきたい。

石田土木事務所副所長：「白根通り拡幅事業の早期完成」については、現在、齋藤橋から北に300メートル、横浜銀行白根支店から北側に500メートルのあたりだが、令和4年度の完成を目指して進めている。用地をすべては取得できていない状況なので、交渉を引き続き進めていく。齋藤橋の交差点については、工事が今年度完了する予定だ。

次に「帷子川河川改修事業の推進」については、河川改修全体は令和15年度の完成予定、東洋ガラスの敷地については、取得したので順次進めていく。

大岩議員：旭区総合庁舎等再編整備について、区役所が駅から遠いとの意見があったが、図書館も駅から離れている。図書館も同時に検討されればいいと思うが図書館は入っているのか。

中村区政推進課長：鶴ヶ峰のまちづくり構想の中に公共施設の再編整備の検討を位置づけているので、可能性も含めて考えていくことになっている。

(2) 『(仮称)横浜国際園芸博覧会旭区推進協議会』の設立に向けた準

	<p>備状況について</p> <p>質疑なし</p>
備 考	